

〔目的〕 朝、出かける前に髪を洗う（シャンプーする）、いわゆる「朝シャン」が、若い人を中心に広がっている。それにともない、すばやい吸収を売りものにしていく超吸水性タオルが各社から売り出されている。このタオルは、吸水の速さ、包水性の高さ、乾燥の速さなど、メーカーによってそのキャッチフレーズとしている特性は異なっており、素材、価格、表示などに大きな差がみられる。超吸水性タオルの消費性能について調べ、特に水分伝達性能と実際の使い心地との関係について検討する。

〔方法〕 市場の現状を把握するために行った市場調査の結果を基に、特殊繊維の使用、混紡方法の工夫、布の構造の工夫をしているタオルを選定した。それらについて、吸水性、吸湿性、透湿性、包水性、乾燥性等の水分伝達性能や、引っ張り強伸度、伸長弾性度など、耐久性能試験をJISに準拠して行う。肌ざわりやぬれ感などの使用感について官能検査を行う。

〔結果〕 タオルの厚さ、重さ、大きさなど静的性能には大きな差がみられた。また、吸水性もバイレック法によると、普通タオルよりも非常に高いものもあったが、低いものもみられた。吸水性能については、吸水速度だけでなく、吸水量、包水量及び透湿性、乾燥性など他の水分伝達性能も互いに影響し合うため、それらの相互関係について検討した。また、乾燥時及び湿潤時の触感など、実際の使い心地について、水分伝達性能がどう関係しているのかを検討した。